



■被災地出張授業……2013年 12月19日

志と「日就月将」

講師：重山 俊彦 氏 (キッコーマン 取締役／キッコーマンソイフーズ社長・キッコーマン飲料社長・キッコーマンバイオケミファ社長・キッコーマンデイリー社長)

2013年12月19日、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業を、宮城県亶理高等学校で行った。今回は、キッコーマンの重山俊彦氏が講師として登壇し、食品化学科、商業科の生徒約210名を前に、志を持って学ぶことの大切さを語った。



震災の経験を後世に語り継ぐこと

皆さんは、東日本大震災を経験し、今も苦勞されていることと察します。しかし、天災はまたいつどこで起こるか分かりません。ぜひ、皆さんの経験を正確に、後世に語り継いでください。また、その責任があると自覚してください。それを教訓とすれば、必ず減災の役に立つはずですよ。

私は原爆が投下された2年後に広島県で生まれました。当時、私の周りには原爆の後遺症を持った人がたくさんいました。小学校の先生は「君たちは、原爆のことを語り継ぐ責任がある」と言い残して他界しました。原爆は人災です。今回の福島第一原発事故もそれに近いと思います。人災は決して起こしてはいけません。天災は被害を最小限に抑える手だてを事前に考えなければなりません。人災と天災は違いますが、語り継ぐことで人々の意識が薄れることなく、それらの対策を立てることができるのです。

勉強で自分を知り志を持って「日就月将」

今回、講演するに当たって亶理高校のホームページを拝見しました。その中で、とても良い言葉に出会いました。「日就月将」という言葉です。志を持って日々努力することが大切だという意

味だと私は解釈しています。

私は、皆さんと同じ高校2年生の時に食品の道に進もうと思いました。皆さんも、早く人生の方向性を決めた方が良いでしょう。そうすれば、今自分がやるべきことが見えてきます。それが「志」なのです。

なぜ勉強をするのか。学生のころは誰もが持つ疑問です。私も勉強は好きではありませんでした。高校生になって初めての学力テストでは、550人中、私の順位は下から12番目でした。しかし、「食品の道に進みたい」という志を持ってからは、努力して勉強し、大学に進むことができました。

勉強をするということは、「自分を知る」ことにもつながります。勉強をすることで、自分の得意、不得意が分かるはずですよ。ぜひ、向き不向きを知って、自分の進むべき道を見つけてください。

それからあえて言いますが、世の中は不公平なことばかりですよ。生まれた時から、それぞれ環境が違います。お金持ちの家だったり、そうでなかったり。しかしただ一つ、公平なものがあります。それは一日24時間ということです。この24時間をどう使うかで、人生が決まってくるのです。時間は有効に使ってください。

社会で通用するのは優秀ではなく、有能な人

皆さんの周りにも優秀な人はたくさんいると思います。記憶力の良い人、理解力に優れた人、分析力のある人などです。しかし、残念ながら優秀というだけでは、社会では通用しません。仕事ができる人は、現場に適應できる人、そして実践力、技術力を持った人です。これを有能な人と言います。

具体的な例を挙げます。お箸は皆さん使えると思いますが、利き手と逆の手で使えますか？ 私は右利きですが、左手でもお箸が使えます。それは、練習をしたからです。ばかなことをと思うかもしれませんが、しかし、右手に力があっても左手が使えれば困りません。その方が良いことは、誰もが分かっています。分かっているのに、なかなか行動には移しません。

学校で学んだ“知識”をどう使えばいいか、その答えが“知恵”となります。そして、それを実行し自分の体で表現できるかどうかです。それを“胆識”と言います。この胆識を備えた人が有能な人なのです。社会では、有能でないと通用しません。東大を卒業するような優秀な人でも、有能でない人はたくさんいます。有能になるには、コツコツと体で覚えるような努力が必要です。これも、「日就月将」ということです。

どうか、亶理高校で学んだことに誇りを持って、志を具体的にイメージして、「日就月将」に励んでください。

生徒との質疑応答

Q 重山さんは、五つの会社で社長などの役員をしているとのことですが、社長になるために、どんな努力をしてこられたのですか？

A 社長になるための努力は一切していません。自分が世の中の役に立つような仕事を続けていれば、周りの人が評価してくれます。その結果、行きつくところがトップです。それは、どんな会社でも同じです。周囲に対し



て、あいつがいてくれるとありがたいと思われるような気配りをし、自分のカラーを出していくことが大切です。社長は、なろうと思ってなれるものでもありませんし、そのときどきのタイミングが合えば、誰にでもチャンスはあります。漠然と社長になりたいと思うくらいで、ちょうど良いと思います。また、社長になるには、頭が良い必要はありません。周りにたくさんそういう人がいます。ただ、体力、気力がしっかりとしている必要があります。

Q 企業は、どんな人を採用したいと思いますか？

A 企業が採用したいと思う人材は、まず周りの人との協調性がある、元気で、明るくて、はきはきと話す人です。そして一番、大事なものは人の話をきちんと聞ける人です。どんなに頭が良くても、人の話を30分間集中して聞けない人は、絶対に採用しません。人の話を聞くのは、大変なことで、努力が必要です。正直に言えば話をしての方が楽です。人の話を聞くというのは、相手の目を見ることです。これを30分間集中できるかどうかです。人よりも集中力がある人が、勉強でも運動でも大成できる人です。

生徒の感想

●会社がほしいと思う人材は、30分以上相手の目を見て話を聞ける人と言っていました。私は、あまり長く集中が続かずにすぐ飽きてしまうタイプなので、これからの学年集会や全校集会の時は、我慢して相手の話をよく聞いてみようと思いました。

●重山さんが「聞きたくない人は出て行ってどうぞ」と言っていて驚きました。よく考えてみると、「一生懸命聞いている人の妨害をしないでくれ」「興味のない人は聞かなくていい」と言いたかったのだと思いました。お話の中で、初めて「日就月将」という言葉を知りました。「日進月歩」に似ているけれど、それとは違う深い意味があることを知りました。これから自分がどのように行動していくかを考える良い機会となりました。

●社長になるためには、という質問に、まったく努力をしませんでした、と言っていたことに驚きました。人に必要とされる人間になることだと言っていて、答えは単純だと思いました。自分も人に必要とされる人間になり、将来は企業を支える人間になりたいです。

●今回の講演で一番大切だと思ったことは、時間は平等である、ということです。どんな家庭に生まれても、ど

んな容姿でも、みんなに24時間は平等にあります。それをどう使うかは自分次第です。使い方によっては、いわゆる勝ち組、もしくは負け組になります。つまり、時間の使い方が上手な人ほど成功するということです。人生を成功させるため、時間をうまく使えるようになりたいです。

●今回の講話では、仕事のことだけでなく、つらいことも後世に語り継がなくてはいけないということを教えていただきました。自分は、震災でつらいことを経験しました。ですが、そのつらいことを乗り越えてきたことを後世にしっかりと語り継いでいきたいと思います。

●理不尽な世界では問題が山積みです。天災は仕方がないのですが、人災は絶対に起こしてはいけないんだと知りました。東日本大震災の時の原発、日本に落とされた原子爆弾、人が人を傷付けるというどうしてこうも悲しいことばかりを人は起こしていくのだろうかという疑問も出ました。この講話は多分、こういった疑問を見つけて考えさせることにあるのだと思いました。他人から聞かせていただける話というのは、自分の中で反すうして、考えさせていくことの練習だと思いました。知識を知恵として得て、自分のものとしていくことだと思いました。